

県オリジナルかんきつ「南津海シードレス」の 低軒高ハウス栽培に向けた低樹高化技術	
担 当	柑きつ振興センター ○西岡 真理・岡崎芳夫
研究課題名 研究年度	「南津海シードレス」の施設栽培拡大に向けた栽培技術の確立 平成 29 年～令和 3 年

背 景

収穫期が4月以降となる「南津海シードレス」は、寒害や鳥害を回避するために施設栽培が有効である。しかし、棟高4mの既存施設では、危険を伴う高所作業での施設管理となり、施設導入費も多額となるため、低軒高ハウス栽培の導入を検討している。

目 的

低軒高ハウス栽培が可能となるコンパクトな樹冠維持のため、カンキツのわい性台木であるヒリュウ台および樹勢の弱い品種の中間台の利用が、樹体の生育に及ぼす影響を調査する。

成 果

- 1 ヒリュウ台の利用が樹体の生育に及ぼす影響
 - (1) ヒリュウ台の「南津海シードレス」は、カラタチ台に比べて幹周、樹高および樹冠容積の拡大を抑制する。なお、ヒリュウ台とカラタチ台との生育差は、樹齢が進むにつれて大きくなる(図1、写真1)。
 - (2) 低軒高ハウス栽培では、ハウスビニール被覆時のハウス内の気温が、高軒高ハウスに比べて高く推移することから、ヒリュウ台、カラタチ台ともに、樹体の生育が早い傾向にある(図1)。

- 2 樹勢の弱い品種の中間台利用が樹体の生育に及ぼす影響
 - (1) 弱樹勢品種の「ゆら早生」を中間台に利用した「南津海シードレス」は、強樹勢品種の「青島温州」を利用したものに比べて、幹周、樹高および樹冠容積の拡大を抑制する。また、中間台木部の長さは、10cm区より30cm区において樹冠拡大の抑制効果が高い(図2、表2)。
 - (2) 中間台に樹勢の弱い品種を用いることや、中間台木部を長くすることは、樹冠拡大の抑制に有効である。

- 3 成果の活用と留意事項

本成果は、5年生以下の幼木期におけるものである。引き続き成木時まで、樹冠拡大の推移や果実品質、収量性、作業性などを調査し、低軒高ハウス栽培に適した植栽間隔の設定などを検討する。

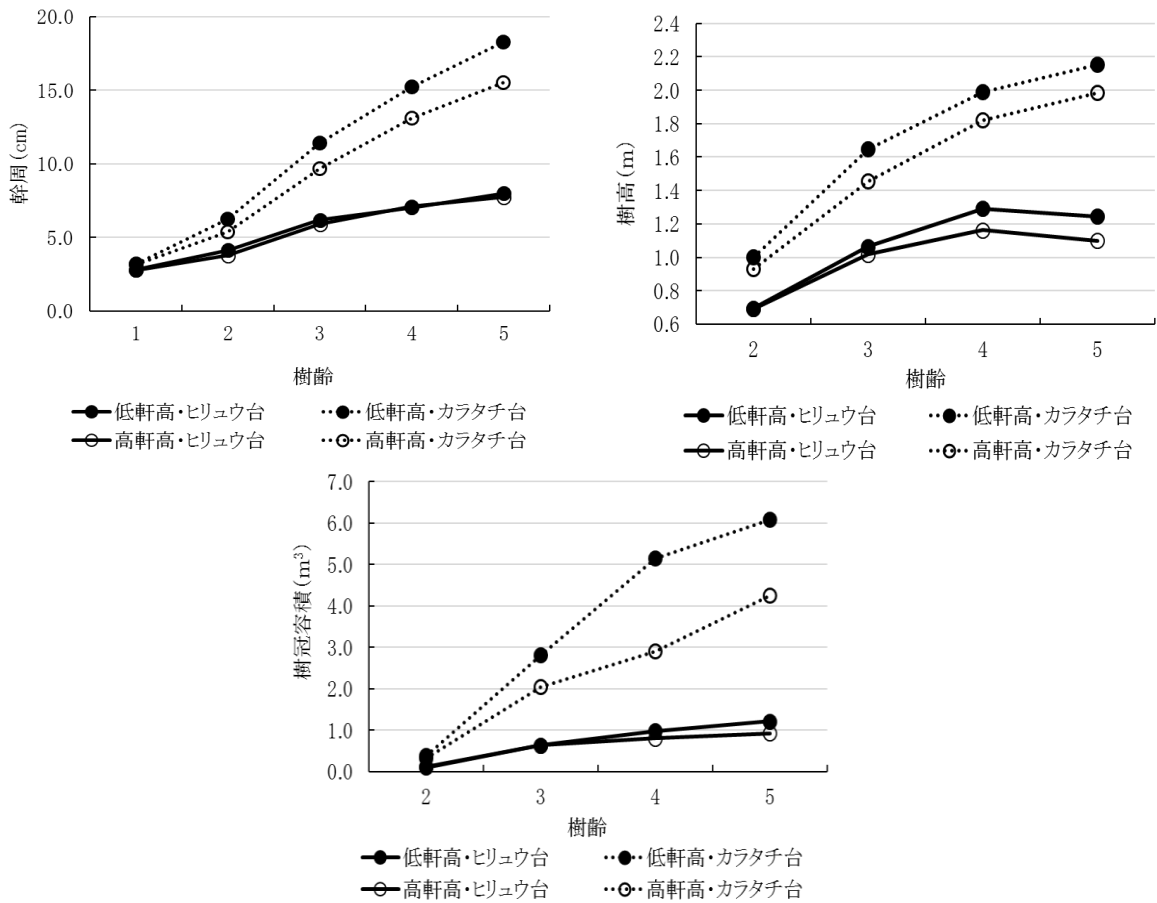


図1 ハウスおよび台木の違いが「南津海シードレス」の生育に及ぼす影響
(左上：幹周、右上：樹高、下：樹冠容積)



写真1 5年生時の樹姿

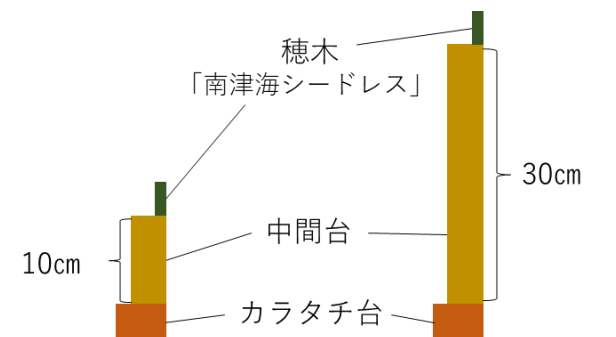


図2 中間台の接木方法

カラタチ台の「ゆら早生」、「青島温州」の苗木を用いて、台木の接木部から10cm、30cm上の位置に「南津海シードレス」の穂木を接いだ

表2 中間台木の品種および長さの違いが「南津海シードレス」(4年生)の生育に及ぼす影響

試験区	幹周(cm)	樹高(cm)	樹冠容積(m ³)
ゆら早生 30cm	10.7 a ^z	145.0 a	1.4 a
10cm	12.6 a	165.0 ab	2.6 ab
青島温州 30cm	13.0 a	190.0 b	2.1 ab
10cm	16.4 b	178.3 b	3.3 b
有意性 ^z	*	*	*

^zTukeyの多重比較検定により異なるアルファベット間で有意差あり(*:5%水準)

中間台木の2年生苗を2017年4月に定植し、5月に接ぎ木